

患者さまと井上眼科病院をつなぐ、「眼」の情報ペーパー

井上眼科だより

— Inouye Eye Hospital News —

vol.112
2020 SPRING

特集

角膜移植について

• 第43回日本眼科手術学会学術総会 開催報告



医療法人社団 済安堂

井上眼科病院グループ

INOUE EYE HOSPITAL GROUP

西葛西・井上眼科病院 移転 5 周年

患者さまに寄り添う病院づくり

2015年に病院とクリニックを統合させ、今年で5年が経過しました。開院当初から「患者さま第一主義」のもと、誰もが安全で快適に過ごせる施設のデザインをはじめ、地域の皆様に寄り添える病院づくりを目指してまいりました。

おかげさまでこの5年間に多くの患者さまよりご支持をいただき、現在では年間13万人以上の方にいらして頂いています。

当院のモットーは「患者さまの話によく耳を傾けること」。子育て世代の多い地域の特性に合わせ、小児眼科の専門外来（完全予約制）を設置するなど、様々な患者さまが安心して通院できるよう、職員一同、患者さまの声を日々大切にしています。今後も皆さまに頼られる眼科病院として、江戸川区の地域医療の一翼を担ってまいります。



西葛西・井上眼科病院 院長
井上 順治

硝子体手術 年間 **1,000** 件
白内障手術 年間 **3,500** 件

大学病院レベルの手術実績

西葛西・井上眼科病院は先進設備をそろえ、網膜剥離や糖尿病網膜症など網膜硝子体に特化した大学病院レベルの高度医療を提供しています。

ここ5年間、網膜硝子体手術の実績は年間1,000件に及び、国内でも有数の症例数を手がけるまでになりました。また、合併症の多い糖尿病網膜症では、地域の内科系クリニックと連携を強化し、スムーズな診療体制を図っています。

近年は硝子体手術だけでなく、手術に使用する眼内レンズに「多焦点レンズ」を導入し、白内障手術も、年間3,500件を超える実績となりました。

これからも地域に根差した病院であり続けるとともに、多様化する患者様のニーズに応え、あらゆる眼疾患に対応できるよう最先端の眼科医療を追求してまいります。

西葛西・井上眼科病院 ご予約・お問い合わせ

☎03-5605-2100

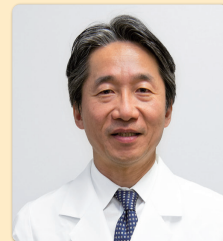
西葛西 井上眼科

検索

月～土 … 8:30～16:30

近年の医療技術の進歩で、安全な手術となった角膜移植。

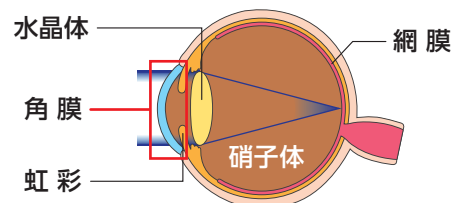
今回は井上眼科病院 天野史郎副院長に、「角膜移植」に関するさまざまな質問にお答えいただきました。



井上眼科病院
副院長 天野史郎 医師

1 角膜とは

角膜は黒目の表面にある組織で、正常では透明で綺麗なドーム状の形をしています。黒目と言われるのは、その後ろにある黒っぽい色の虹彩が透けて見えるためです。角膜は、水晶体とともに眼のレンズとして働き、外界からの光を屈折させ網膜に像を結ばせます。



2 角膜の病気

角膜の病気としては、様々な感染症（細菌、真菌、アメーバ、ヘルペス）、外傷や異物による傷、遺伝性疾患、円錐角膜、水疱性角膜症などがあります。また、見え方も角膜が濁ったり変形することで異常が起こります。治療法も原因に応じて変えていく必要があり、通常は点眼薬などによる内科的な治療を行います。困難な場合には角膜移植という手術を施行します。

3 角膜移植の進歩

角膜移植はこの10年ほどの間に大きく進歩しました。以前は角膜の表面から裏まで全層を交換する**①全層角膜移植**（右図）という方法がほとんどでした。

現在では、病気の状態に応じて角膜を層状に分けて移植する方法がとられます。例えば、**②深層層状角膜移植**（右図）では、感染症や遺伝性疾患で濁った角膜の中（実質）だけを交換し、一番裏側の内皮細胞を残すことができます。また角膜を裏打ちする内皮細胞が減少する水疱性角膜症などでは、薄いシート状にした角膜を裏側から空気圧で貼り付ける**③角膜内皮移植**（右図）という手術があります。

角膜移植の方法

① 全層角膜移植	移植角膜 → 角膜
② 深層層状角膜移植	移植実質層 → 角膜
③ 角膜内皮移植	角膜 ← 移植内皮

4 国内ドナーと海外ドナー

当院で角膜移植を受ける際は、国内ドナーと海外ドナー（アメリカアイバンクからの提供）のいずれも選択することができます。国内ドナーは、公的保険の範囲で施行可能ですが、角膜提供者の平均年齢が高いという点があります。また角膜提供者が少ないため手術の予定を組むことができず、急なお声掛けとなります。海外ドナーは予定手術が可能で、ドナー年齢も若いことが特徴ですが、国内ドナーと比べて費用が掛かる面があります。どちらを選択するかは診察時にご相談して決めていきます。

お気軽にご相談を

天野副院長はこれまで30年以上にわたって東大病院や井上眼科病院で数多くの角膜移植を行ってきました。井上眼科病院グループでは、角膜疾患について経験豊富な医師が対応いたします。お気軽にご相談ください。

お茶の水・井上眼科クリニック
ご予約・お問い合わせ

☎03-3295-0923
月～土 … 8:30～16:30

お茶の水 井上眼科 検索

◎札幌・井上眼科クリニック

札幌は例年になく雪の少ないシーズンでした。冬の一番のイベントである雪まつりも、市内だけでは雪が不足し市外から大量のトラックで雪の輸送が行われました。当院から雪まつり会場が非常に近く、勤務後に少しかだけ覗きに行きたかったのですが諸般の事情により難しくなっていました。そんな中、札幌の中心部にある当クリニックに足を運んでいただける患者さまには、不安なく安心していただけるよう日々診察にあたっています。

当院での話題は、1月より「眼科ドック」が始まったことです。一般外来では患者さまの症状に合わせて医師が視力検査や眼底検査などの検査を決めていきますが、眼科ドックでは眼の表面から、奥底まであらゆる検査を網羅的に行うことで、自覚症状の少ない様々な疾患を早期に発見することを目的としております。また、患者さまへ結果報告書をお渡しすることで、ご自身で自分の眼の状態を把握していただくということも重要と考えております。

もうすぐ当院は開院1周年を迎えます。何かお困りのことがございましたら是非とも当院に足を運んでいただければと思います。

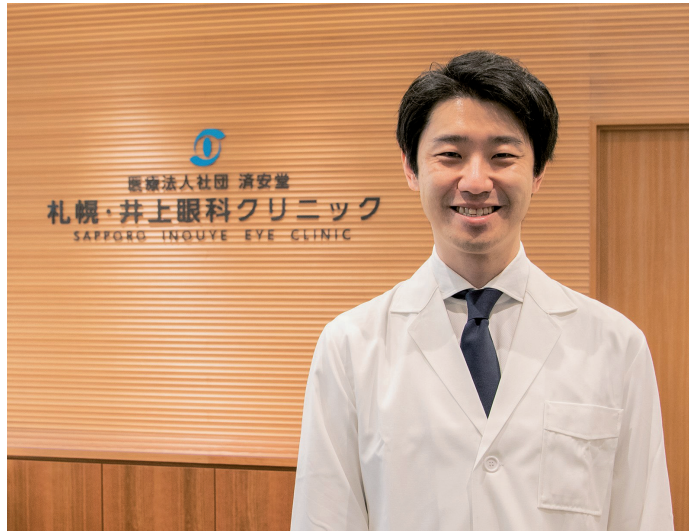
札幌・井上眼科クリニック ご予約・お問い合わせ

☎011-200-3755

札幌 井上眼科

検索

月～金…9:15～12:30/14:00～17:30 土…9:15～12:30



清水恒輔 院長

『北海道の病院 2020』に 当院が掲載されました

北海道新聞社発行の『北海道の病院 2020』に札幌・井上眼科クリニックの紹介と清水院長のインタビュー記事が掲載されました。書店・コンビニなどで発売中です。是非ご覧ください。



北海道新聞社 道新プラス
価格:880円(税込)

第43回日本眼科手術学会学術総会が開催されました

会 期: 2020年1月24日(金)～26日(日)

テーマ: さらなる高みへ

当院の天野副院長が総会長を務める「日本眼科手術学会学術総会」が、東京国際フォーラムで開催され、国内外から医師・看護師をはじめ医療関係者約3,500名の方が来場されました。白内障はもちろん、角膜、緑内障、網膜硝子体、涙器・涙道など、日進月歩の眼科手術のさまざまな領域にわたって講演、シンポジウム、教育セミナー、インストラクションなどが行われ、最新知見の発表・討論が熱く繰り広げられました。

今後も井上眼科病院グループでは、一人でも多くの患者さまに安心して手術をお受けいただけるよう、知識と技術の向上を図ってまいります。

主な講演・シンポジウム紹介

- 特別講演: 「Patient-based Medicine さらなる高みへー明日の前眼部手術ー」
演者/宮田和典(宮田眼科病院) 座長/天野史郎(井上眼科病院)
- 招待講演: 「Glaucoma, Cataract, and MIGS」
Peter A. Netland (University of Virginia) 座長/高橋浩(日本医大)
- 総会企画: 「Corneal biomechanicsと眼科臨床」、
「黄斑手術のCutting Edge」、
「AIと眼科手術」など6つのシンポジウム
- 法人企画: 「International Glaucoma Symposium」など3つのシンポジウム
- その他: 教育セミナー、インストラクションコースなど



総会長を務めた天野副院長



学会に関わった当院職員

◆ INFORMATION 井上眼科病院グループからのお知らせ ◆

世界緑内障週間「ライトアップinグリーン運動」に参加しました。

3月の世界緑内障週間(8～14日)の期間中、緑内障という病気を広く知ってもらう国際的イベントが、世界各地で行われました。日本では、緑内障の認知と啓発に向けて、各地のランドマークとなる施設を緑色にライトアップする「ライトアップinグリーン運動」を展開しました。井上眼科病院も2017年から毎年ライトアップに参加しており、今年からは新たに西葛西・井上眼科病院も参加しました。緑の光は「あなたの眼がずっと見えていますように」という希望の光でもあります。



西葛西・井上眼科病院

NHK「おはよう日本」から井上理事長が緑内障について取材を受けました。

3月7日(土)に放送されましたNHK「おはよう日本」で井上理事長が「緑内障の早期発見が可能に！」をテーマに解説しました。番組内で紹介されているOCT(三次元眼底解析検査)によって視野検査で異常がない状態から緑内障を発見する、超早期診断が可能となりました。40歳を過ぎた方や長年にわたり眼科を受診したことがない方は、年に一度の定期検査をおすすめいたします。



「40歳からが眼の健康を保つカギ」

年に一度の定期検査には眼科ドックを推奨しています。眼科ドックとは、OCTなど“眼”に特化した専門の検査を行い、眼の健康を維持するためのものです。

お茶の水・井上眼科クリニックと札幌・井上眼科クリニックにて実施しています。



パンフレットが新しくなりました

全国で活躍中の井上眼科OBの先生方をご紹介！



さいはく眼科クリニック

瀬戸川 章 院長

2011年1月～2016年4月
井上眼科病院在籍



田園風景に立地したさいはく眼科



瀬戸川院長(中央左)と
当院の井上理事長(中央)

今回ご紹介するのは、鳥取県西伯郡の「さいはく眼科クリニック」院長 瀬戸川章先生です。2011年から約5年間、お茶の水で勤務されました。「最初はそれまで勤務していた施設に比べて、とにかく診察室の多さに驚いた。」と当時を振り返っていらっしゃいました。主に一般眼科を担当されていましたが、眼科関連の学会では緑内障を中心に発表されていたとのこと。現在のクリニックは米子市内から車で30～40分程の場所にあり、「鳥取県では、山間部の眼科医療は希薄であり、バスなど公共交通機関も1～2

時間に一便程度といった地域もあり、都市部の眼科への通院が困難な方も数多くいらっしゃいます。」と過疎化が進む地域医療の実態についてお話くださいました。また目の前には複数の診療科を持つ西伯病院があり(内科、外科、整形外科、婦人科、精神科等)、近隣だけではなく更に遠方の患者さまがこの地区に受診に来られているそうです。

「眼科無医村を少しでも減らすことができれば」をモットーに、郡部における希薄な眼科医療を補うことを主眼において、日々患者さまと向き合われています。

井上眼科だより

— Inouye Eye Hospital News —

vol.112
2020 SPRING

◎ 大宮・井上眼科クリニック



大宮・井上眼科クリニックは、幅広い眼科疾患治療に対応する埼玉エリアの診療拠点として、日々多くの患者さまにご来院いただいております。当クリニックは一般眼科外来をはじめさまざまな専門外来をおこなっておりますが、最近では神経眼科外来に近隣のクリニックからご紹介をいただく機会が多く、難しい症例の対応なども増えてまいりました。入院や重症例の場合は、当院グループ内で連携することで、患者さまがより安心して受診できる環境を提供いたします。

大宮・井上眼科クリニック 院長
野崎 令恵

大宮・井上眼科クリニック ご予約・お問い合わせ

☎048-871-8471

大宮 井上眼科

検索

月～土… 8:45～12:00 / 13:30～17:00



日帰り手術

野崎院長を中心に年間600件をこえる白内障手術を行っております。日帰り手術は普段の生活リズムを崩さずに、入院による生活環境が変わる負担やストレスを感じることなく安心してうけることが可能です。症状でお困りの方、手術をうけるかお悩みの方はお気軽にご相談ください。



安心して通院できる環境

当クリニックはさまざまな地域からアクセスの良いJR大宮駅より徒歩3分の立地にあり、県内外からの患者さまに通院していただいております。院内にはユニバーサルデザインを導入し、すべての機能を1フロアに集約することで快適な診療空間を提供しています。